

病 防 第 437 号
令和2年8月 27 日

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察特殊報について

令和2年度病害虫発生予察特殊報第2号を発表したので送付します。

令和2年度病害虫発生予察特殊報第2号

1 病 害 名 : パパイヤ黒腐病

2 病 原 菌 : *Erwinia* sp.

3 発 生 地 域 : 沖縄本島南部、宮古島市、石垣市(※ 令和2年8月時点)

4 発 生 作 物 : パパイヤ(※ 令和2年8月時点)

5 発生確認の経緯

令和2年1月、沖縄本島南部の露地栽培パパイヤで、茎や葉柄に灰白色水浸状の病斑を呈し、生長点付近が腐敗枯死する症状が確認されたため、沖縄県農業研究センター及び農林水産省那覇植物防疫事務所に同定を依頼したところ、16SrDNA 領域の遺伝子解析結果から、*Erwinia* sp.による病害と診断された。本病は平成14年11月に石垣市のパパイヤで東京農業大学の篠原氏によって国内初確認され、平成24年に宮古島市でも発生が確認されている。令和2年3～8月に県全域を対象とした発生状況調査を行った結果、沖縄本島南部、宮古島市、石垣市で発生が確認された。

6 病 徴

本症状は葉、茎、果実で発生する(図1、図2)。葉では褐色角斑状の病斑を生じ、それが葉脈に沿って拡大し萎凋枯死する(図3)。茎では初期症状として葉柄基部に灰白色水浸状の病斑を生じ、窪んだのち暗褐色から黒色に変色し、葉がしおれ葉柄部から先が垂れ下がり、変色部分が腐敗して葉柄部が脱落する症状を呈する(図4、5)。その後、生長点の枯死や株の折損等を引き起こす(図1、6)。果実では水浸状の斑点症状が現れた後、その部分が落ち窪んで黒変し拡大する(図2、7)。

7 病原菌の特徴と伝搬方法

風雨による伝染、種子伝染、苗木による伝播等が疑われるが、現在のところ詳細は不明である。

8 防除対策

- ・健全苗を植え付ける。
- ・発病株および罹病果実は伝染源となるので速やかに圃場外に除去し、感染源とならないように適切に処分する。



図1. 罹病株



図2. 罹病果



図3. 葉の角斑状症状

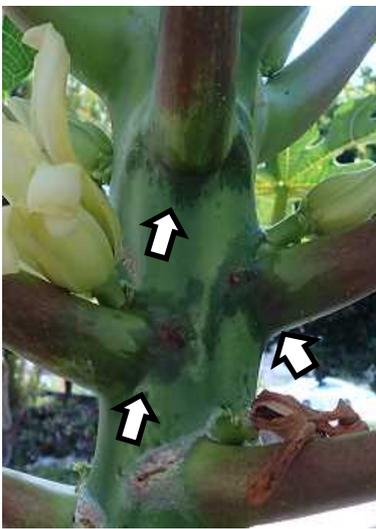


図4. 灰白色水浸状病斑



図5. 葉柄基部の黒変



図6. 株の折損



図7. 果実での初期症状

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933

ホームページアドレス: <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>